

(11) 沖縄



沖縄地域では、景気は緩やかに回復している。

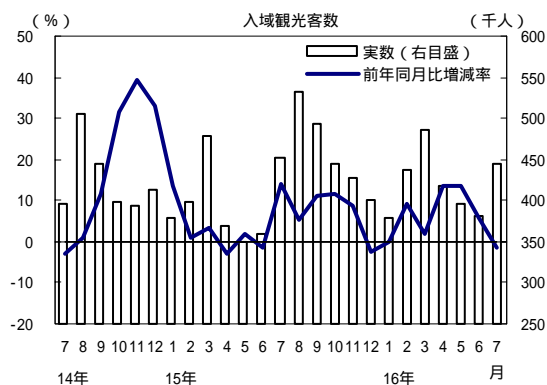
- ・ 観光は増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

前回調査からの主要変更点
なし。

1. 観光及び企業動向

(1) 観光は増加している。

入域観光客数は、4月は、台湾からのクルーズ船運航による外国客の増加等により前年を上回った。5月は、大型連休の日並みの良さや修学旅行の増加により前年を大幅に上回った。6月は、台湾からのクルーズ船の好調や高雄 - 那覇間にチャーター便が就航したことなどから、台湾客を中心とした外国客が前年を大きく上回り、全体でも増加した。7月は、主要航路の提供座席数の減少やオーバーブッキングへの慎重な対応から6か月ぶりに前年を下回った。なお、4～6月は各月の過去最高、7月は過去2番目を記録している。また、4 - 6月期における主要ホテルの客室稼働率については、那覇市内のホテルは前年を上回ったものの、リゾートホテルが6月の台風の影響でキャンセルがあったことなどから前年を下回り、全体でも下回った。



入域観光客数等の動向

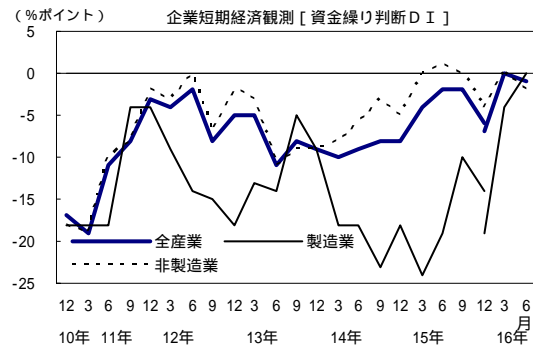
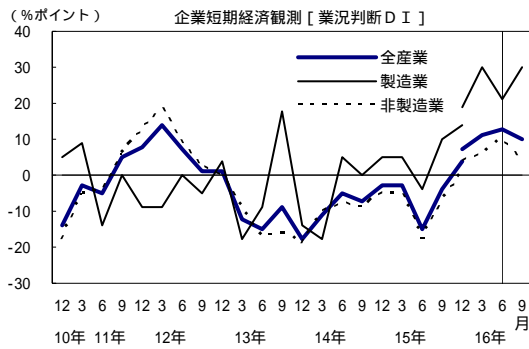
(単位: 千人、%)

	15年7-9月	10-12月	16年1-3月	4-6月
入域観光客数	1,476	1,275	1,302	1,195
(前年比)	9.6	5.7	3.6	10.9
ホテル稼働率(前年差)	5.9	3.9	0.9	0.7

(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光リゾート局調べ。

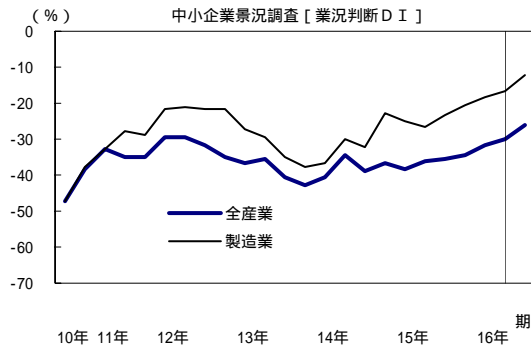
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超に転じている。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年9月は予測。
 なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
 なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。
 九州地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「大型店舗のオープン、猛暑による量販店の売上増に伴い、物量が増加している(輸送業)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

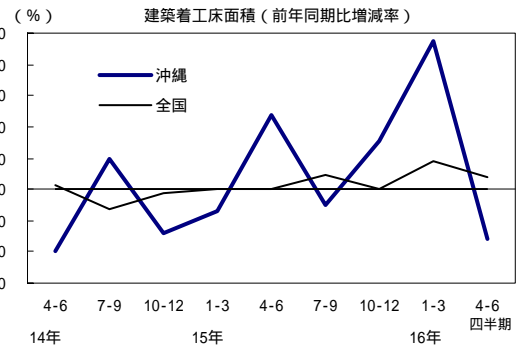
(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績	16年度計画
全産業	3.6 (2.6)	26.6 (1.2)
製造業	45.0 (1.3)	1.0 (1.2)
非製造業	7.0 (2.7)	29.4 (1.2)

(備考) () は前回 (3月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額及びコンビニエンスストア販売額

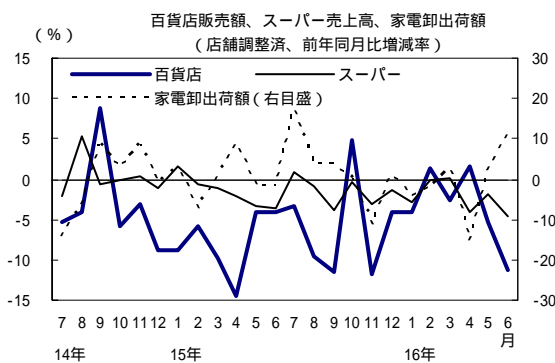
百貨店は、4月は催事の好調やリニューアルの効果で、アクセサリーなどの身の回り品や雑貨が好調であったため、前年を上回った。5月は大型スーパーの新規オープンの影響から衣料品を中心に振るわず、前年を下回った。6月は、大型スーパーの影響に加え、台風の影響から前年を下回った。

スーパーは、消費税の総額表示や大型スーパーのオープン、さらには6月の台風の影響により衣料品を中心に前年を下回った。なお、全店ベースでは前年を上回っている。

家電は、アテネオリンピックの影響で、薄型テレビなどは好調であったものの、エアコンや冷蔵庫の売行きが鈍かったことから、全体では前年を下回った。

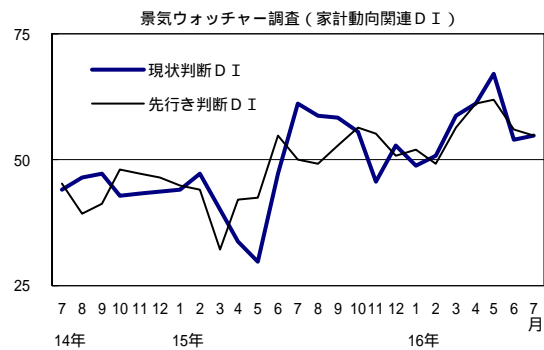
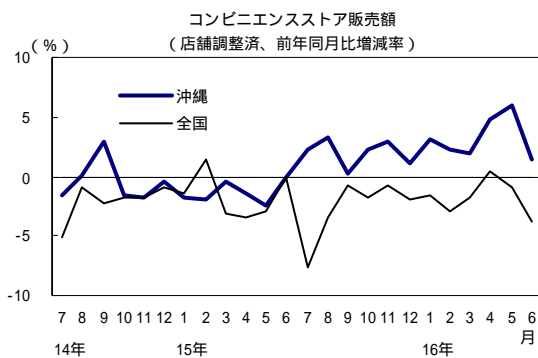
景気ウォッチャー調査（7月調査）[家計動向関連D I（現状判断）]

「前月は台風の影響を強く受けたが、当月は月初から夏物衣料処分セールが好調で、対前年同月比で2、3%改善している。一部食品については中元期間のずれにより対前年同月比としては苦戦している（百貨店）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比増減率、単位：%)			
	15年7-9月	10-12月	16年1-3月	4-6月
百貨店	8.0	4.1	1.9	5.2
スーパー	1.2	1.7	1.0	3.5
家電卸出荷額	8.9	3.0	0.9	1.1
コンビニ	2.0	2.1	2.3	4.1
景気ウォッチャー	59.5	51.4	52.9	60.6

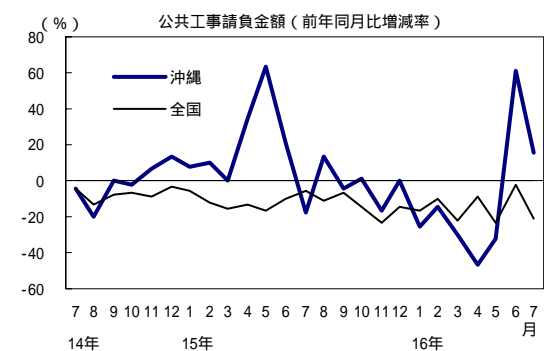
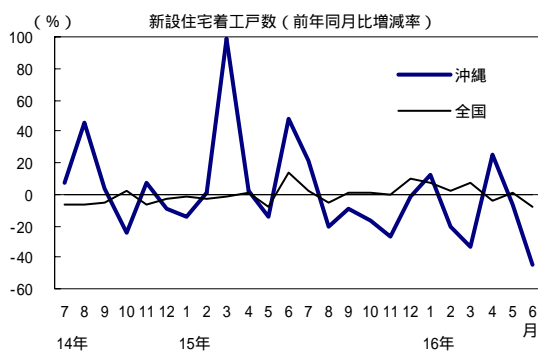
- (備考) 1. 百貨店販売額、家電卸出荷額は沖縄銀行調べ。
2. スーパー売上高、コンビニ販売額は日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。
3. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

給与は前年を上回ったものの、貸家が前年を大きく下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度とほぼ同水準になっている。

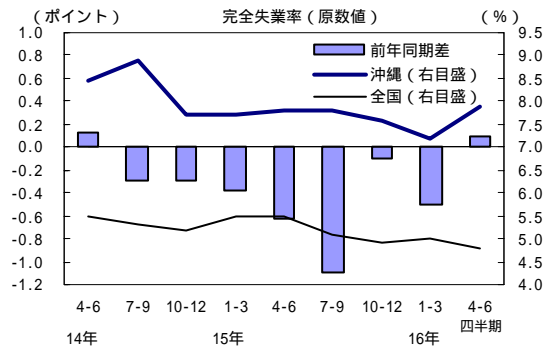
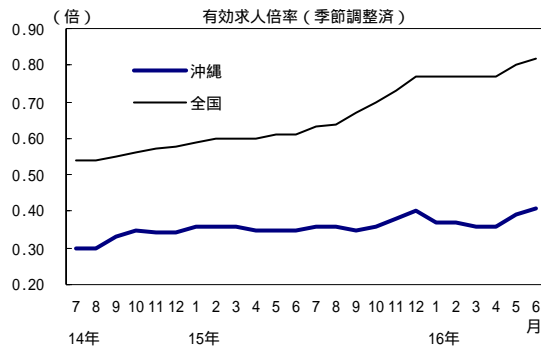


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準である。



(備考) 沖縄県企画開発部統計課「労働力調査」により作成。

景気ウォッチャー調査 (7月調査)[雇用関連 (現状判断)]

「求人数は微増しており、観光関連企業の業績が好転していることから、建設業以外の県内景気は全般的に好転している (学校 [大学])」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

7月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年7-9月	10-12月	16年1-3月	4-6月	16年7月
倒産件数	35	24	18	20	14
(前年比)	6.1	7.7	30.8	41.2	6.7
負債総額	173	43	184	50	69
(前年比)	138.2	49.9	11.2	58.6	127.9



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

・昨年と比較して、気温が多少低いことと、観光客がこの夏は離島にやや傾斜しているため、客数の伸び率が若干低下している (コンビニ)。

<先行き>

・観光客の増加、年末にかけて郊外における大型ショッピングセンターのオープン等に伴い、求人数の増加が期待される (求人情報誌製作会社)。

